

# 表現活動・造形活動重視の実践的な保育

— 附属園の設定保育活動を中心に —

渡辺一弘

(八戸短期大学)

## I. 問題の所在

本稿は、表現活動を重視し、その活動が全国的にも高く評価されている八戸短期大学附属<sup>1)</sup> 第二しのめ幼稚園 (以下第二しのめ幼稚園と略記) における実践的な保育活動の検討の第 2 報である。

前回の報告で紹介したとおり、第二しのめ幼稚園は、表現活動を重視している幼稚園として地域では知られており、対外的にも平成 12 年度—全国教育美術展、世界児童画展に入賞、青森県教育委員会学校賞受賞、平成 13 年度—日本放送協会会長賞受賞、青森県教育長奨励賞受賞、と毎年全国的な賞を受賞するようになり、近年も平成 17 年度—教育美術奨励賞受賞、世界児童画展指導者賞受賞。平成 18 年度—川の日制定 10 周年記念「ぼくらの水辺再発見マップ」奨励賞受賞 (東奥日報主催) と数々の賞を受賞しており<sup>2)</sup>、平成 19 年度においても地元新聞社主催の展覧会等で園児たちの絵が非常に高く評価されている<sup>3)</sup>。このように、地方の一幼稚園が、造形表現に関する保育活動において、全国的に高く評価される理由と、実際にどのような指導を行っているのであろうか、という問いの下、前回の報告では第二しのめ幼稚園の表現活動の実践を、園所蔵資料と園長、副園長への聞き取り調査を基に検討し、如何にして子どもたちに豊かな感性と表現力を身に付けさせたかを概略的に検討した。その結果、以下の点を明らかにした。

1. 園長の表現活動重視の教育理念が園中に徹底しており、それが結果として、良い方向に作用している。
2. 表現活動については具体的な技術指導をほとんど行わず、造形三系論<sup>4)</sup> に基づき絵を描くイメージやその展示など、いわゆる環境設定に力を注いでいることで、スムーズに表現活動を行える下地を作っている。

本稿では、これらを踏まえて、表現活動重視の第二しのめ幼稚園の活動内容等について、園における日々の具体的な実践活動 (設定保育活動) を検討することを目的とする。

## II. 事例研究の対象と方法

### (1) 対象—八戸短期大学附属第二しのめ幼稚園の概要

対象については前回の報告と同じではあるが、八戸短期大学附属幼稚園の統廃合に伴う一部名称・表記の変更等もあるので、改めて示しておく。

第二しのめ幼稚園は、学校法人光星学院によって、光星学院八戸短期大学附属第二しのめ幼稚園として、昭和 54 年 4 月に開園し、その後平成 17 年 4 月に八戸短期大学附属第二しのめ幼稚園に改名した。平成 19 年 4 月には、「附属」の表記が「附属」に変わった。学校法人光星学院の附属幼稚園は、平成 19 年度現在、この第二しのめ幼稚園以外に八戸市内に 2 園 (八戸短期大学附属幼稚園、聖アンナ幼稚園)、八戸市郊外の野辺地町に 1 園 (びわの幼稚園) の計 3 園在り、モンテッソーリ教

育を各園共通の基本理念として、保育活動を行っている。なお八戸短期大学附属幼稚園は、平成19年4月にしののめ幼稚園と多賀台幼稚園が合併して開園した、新園舎の幼稚園であり、八戸短期大学の教員との連携をより強化し、将来的には「認定子ども園」の移行も視野に入れた幼稚園である。改めて第二しののめ幼稚園の建学の精神と教育方針を示すと、以下のとおりである。

### 《建学の精神》

本幼稚園は、学校教育法第77条及び第78条に基づき、幼児を保育し、適切な環境を与えてその心身の発達を助長し、カトリック精神<sup>5)</sup>に基づき宗教的情操を涵養することを目的とする（下線は引用者、以下同様）。

### 《教育方針》

真の幼児教育法や、建学の精神から、まず、幼児が精神的に伸びやかに過ごしつつ幼児それぞれの発達課題を完成できるように援助する。そして、子どもの自主的な遊びを中心としながら、人間として生きる基礎の形成ができる教育をすすめるために次のような項目を重視する。

- ①子ども自ら心身共に安心して遊べる環境づくり。
- ②子ども一人一人の発達や特性に応じて行う援助活動。
- ③初めに個々の充実があり、その後、集団としての育ちを大切にす。
- ④一人一人が自立できるように、生活場面での指導。
- ⑤多様な友達関係を確立する年齢にこだわらない和やかな雰囲気の生活。
- ⑥子どもの多様な興味・関心・能力に応じた環境の準備。

上記の建学の精神と教育方針のもとに、明るく元気な子、自分の考えをもてる子、心の豊かな子の育成を教育目標に掲げ、日々の保育にあたっている、とのことである。特に第二しののめ幼稚園の特長として、ホームページ上で示されているのは以下の三点である。

1. モンテッソーリでのびる知的な心
2. 絵で伝え、絵から汲み取る子どもの心
3. リトミック音楽で楽しむ身体リズム表現

1と3については、他の附属園でもほぼ共通に、特長として捉えられており、2が第二しののめ幼稚園の中心的な特長である。

平成19年度の教職員数は、園長1名、教諭・講師（非常勤含む）7名、スクールバス運転手3名の計11名で、園長とスクールバス運転手を除いて全て女性である。現在の園児数は、3歳未満児1名、3歳児18名、4歳児33名、5歳児45名、合計97名である。なお前年度の園児数は合計で95名である。

参考までに、平成19年度現在八戸市の幼稚園は、第二しののめ幼稚園を含めて全部で26（公立1、私立25）ある。ちなみに、八戸市の認可保育園は全部で70（公立3、私立67）ある。全国的な流れと同様に、八戸市においても、周辺部も含めると幼稚園は減少傾向にあり、公立の認可保育園（保育所）は、民間に移譲する傾向にある。

第二しののめ幼稚園が在る青森県八戸市（人口約25万人）と園の設置地域の新井田地区については、前回の報告で紹介したので本稿では、以下の特色のみを列記する。

1. 八戸市は城下町の伝統をもつ地域の中核都市であり、漁業を中心とした水産都市と、新産業都市にも指定された北東北随一の工業都市の側面をもつ。
2. 新井田地区は市の南部に位置し、近くに保育園・小学校・中学校がある文教地区であり、また団地や企業の社宅なども多くある住宅地である。

### (2) 方法

平成19年7月3日、11月9日の計2回にわたり、設定保育の活動の様子を観察し、その後担当保育者と園長に対して活動内容について質問を行った。具体的には、年長児・きりん組（男子9名、女子13名の計22名のクラス）を観察した。担当保育者は馬場智子教諭で、短大卒業後7年目、このクラスを受け持って3年目の、第二しののめ幼稚園では中堅に相当する教諭である。本稿では、事前に受

け取った設定保育指導案を基に、観察をとおして活動内容（題材）と指導方法・技術の特徴を検討し、考察を加える。

なお筆者は、この観察日以外に幼稚園実習巡回指導、一日実習指導、模擬保育実習指導、その他の打ち合わせ等で、ほぼ月に2回の割合で第二しのため幼稚園に来園している。

### Ⅲ. 結果と考察

第二しのため幼稚園の日々の具体的な実践活動（設定保育活動）を、7月と11月の二つの設定保育指導案を基に、実際の観察をとおして活動内容（題材）と指導方法・技術の特徴を検討してみる。具体的には、紙面関係上、先ずそれぞれの指導案の項目と記述内容を列記し、その内容について観察をとおした筆者のコメントを示す。次にその中の疑問点や確認する点について、担当保育者と園長に聞き取りした内容を基に考察を加える。

（平成19年7月3日の設定保育活動（10:00-11:30））

「指導案より」<sup>6)</sup>

#### 1. 設定保育内容（題材）

～造形活動～「なかよし祭り<sup>7)</sup>の製作より・・・愉快的な魚づくりを楽しもう」

#### 2. 活動内容（題材について）

一日1回は製作活動を楽しんでいる毎日。様々な材料を工夫して、一人一人が自由に取り組み、皆違う作品を鑑賞するのがまた楽しい。今、子どもたちにとって造形は、その中から楽しさを友達と共有できる有効な題材であると思われる。

#### 3. 活動のねらい

★廃材という素材に対する愛着を持たせるとともに、その特性を活かし、接着の仕方を工夫する。

★子どもたち自身がイメージを思い思いに表現させる力を深め、夢中になって作り表して思いを伝える喜びを高める。

#### 4. 子どもの様子

運動会や体力測定に向け、運動活動が多かった中で、でも一日に1回は造形活動の時間が取れてきた。梅雨になり、お部屋の中の活動も増えている中で、個々の活動は、より造形に充実し続けていた。完成品は展示し、鑑賞した後持ち帰ることになる。

#### 5. 本日のねらい

★造形に夢中になることを通して、友達と一緒に作ったり、思い思いに作ることを楽しむ。

★意欲的に取り組み、興味、関心を示しながら、造形という場で一人一人が表現し合う。

#### 6. 環境構成と活動準備

環境→導入となる話し合いを最も重要とし、製作の喜びを味わえるよう環境の配置に気を付ける。

準備→ネット、パッキン、色画用紙、ちらし、スズランテープ、紙テープ、空き箱、空き容器、ボンド、モール、色サインペン、セロテープ

この日の設定保育活動の主な内容は、園の行事予定と7月という時期も踏まえた、バザーに向けての廃材を用いた「魚」づくりである。設定保育指導案の内容として注目する点は、「一日1回は製作活動を行っている」と「導入となる話し合いを最も重要としている」点である。前者については、この園の特長である造形活動重視の表れである。後者については、観察時にも確認できたが、とにかく子どもたちの意見を良く聞いていた。馬場教諭によると、

「特に子どもたちの意見をたくさん聞いて、話し合いをさせて、納得させて、一方的な作業にならないように注意しています」

とのことであった。この点について園長は、以下のように述べている。

「やはり、一方的な作業や押しつけ、指導案に基づいた誘導には保育者は気を付けて欲しい。特に若い先生たちには、そのように言っています。それから、子どもたちから発想はいろいろ出るだろうが、技術的なこと、具体的にはこれを使ったらどうだろう、とかこっちをこうしたらどうだろうか、ということに対しての指導を保育者はきちっとやって欲しいと思います」

また準備物等で工夫した点として、馬場教諭によると、昨年も似たような、ただしもっと簡単な活動を行ったが、そのときは紙袋を使用した、今回はネットを使用したとのことであった。観察して印象に残った点は、以下の三点である。

1. 1時間30分という長時間の活動にも関わらず、子どもたちがまったく飽きていない
2. 子どもたちはみんな、てきぱきと作業を進めている
3. いたる所で、子どもたち同士がアドバイスし合って工夫し、早くできた子どもが、作業の遅い子に対して、教え指導している

つまり、この保育活動において、子どもたちは集中して取り組み、工夫してお互いが助け合うようになっていることがわかる。

〈平成19年11月9日の設定保育活動（10:00-11:00）〉

「指導案より」

#### 1. 設定保育内容（題材）

～絵画活動～「楽しかったね、音楽会！」

#### 2. 活動内容（題材について）

★1ヶ月間、音楽会の練習に取り組み、その間得たもの・・・それは、一つの曲を一人一人が力を合わせて作り上げていくことであった。その結果、頑張りが認められ、誉められた喜びを感じている今が、それを絵画に表現することがふさわしいと思われる。

#### 3. 活動のねらい

★楽器の特性を知り、強弱やリズムの表し方に楽しさを覚えていきながら、一つの曲を完成させ、表現させる力を深め、友達と喜びと楽しさを共用できる事を高める。

#### 4. 子どもの様子

★日々の音楽会の練習も子どもたちからの「先生、今日も練習あるよね？早く、早く！」などなど楽しみ、喜びの声が聞かれる毎日。日に日にせまる本番に対しても楽しみで仕方のないその気持ちに応えることができるように認め、誉めて、やる気を持たせる気持ちを忘れないでいる。

#### 5. 本日のねらい

★日々励み、練習した結果で成功した音楽会を様々な面から思い出し、心情をしっかり受け止め、絵に描いて友達に伝え合おう。

#### 6. 環境構成と活動準備

環境→導入となる合奏、合唱を最も重要とし、一人一人の気持ちを聞き取る時間を持つ

準備→色画用紙（3～4色）、クレパス、楽器

この日の設定保育活動の主な内容は、2日前に行われた「星の子音楽会」<sup>8)</sup>の内容を思い出して絵

を描くことである。設定保育指導案の内容として注目する点は、絵画活動において「導入として、合奏、合唱を最も重要としている」ことである。通常、このような何か行事の後、それを基に絵画活動を行う場合、行事の思い出をみんなで話し合っ、話し合った内容をモチーフに絵を描くのが一般的だと思われる。しかし、この指導案では音楽会を、ミニ実演しているところが注目される。指導案では、なぜ今日楽器演奏を行うのかということについて、

1. どんな気持ちで行った音楽会だったのか、絵に描いて伝え、思い出にしよう。
2. 観ることのできなかつた年少さんに、絵を描いて見せてあげよう。

とあり、続いて「この気持ちを子どもたちに感じとらせ、絵へつなげていける言葉がけがとても重要となる」と記してある。これらの点を馬場教諭に確認した所、

「やはり、再度合奏、合唱をやることで、子どもたちのイメージがふくらみ、そのことが躍動感のある絵につながり、また観ることができなかつた年少さんへ、絵を描いて伝えたいという気持ちがふくらみます」

とのことである。なおこの時の合奏曲は「聖者の行進」、合唱曲は「ドキドキドン1年生」であった。また合奏の担当パートは、子どものたちの希望を優先したうえで、保育者が判断したとのことである。このように、再度合奏、合唱をやってから、改めて絵を描くことについては、園長も以下のように述べている。

「再度合奏、合唱をやって絵を描くのと、そうでないのでは、絵の躍動感も違うが、それよりも子どもたちの思い入れというか、モチベーションがまったく違います」

子どもたちは、話し合いをしてホールに移動し、合奏、合唱を1曲ずつ終えて、ここまで指導案通り25分で終わらせ、メインの活動である絵画活動に取り組んだ。保育者は、「どんなばめんをかきたのか」「どんなきもちでえんそうし、うたったのか」「みることのできなかつたおともだちに、えをかいてつたえよう」「かいたえを、だれにつたえたいか」とそれぞれ書いた4枚の大きな短冊を、前に提示し、改めてこの後の活動内容を子どもたちに問いかけた。その後、子どもたちに好きな色の画用紙を選ばせて、作業を開始させた。

観察して感じた点は、子どもたちの多くが、どんどん絵を描いていっていることと、その絵が立体的で躍動感にあふれているということである。馬場教諭によると、話し合いをただで絵を描かせると、「絵がおとなしくなる」とのことであった。当然、早く描く子どもと遅い子どもが出てくるが、遅い子に対しては急がせず、昼食の後の自由活動の時間、もしくは翌日の空いた時間を使って描くことを指示していた。活動終了時点で、約7割の子どもたちが描き終えていた。また描いている子どもたちへの声かけも頻繁で、第二しのもめ幼稚園が普段から行っている3S活動<sup>9)</sup>のSキンシップも重視していることがわかる。

#### IV. まとめ

以上の検討結果をまとめると、以下の二点が推察できる。

第一に、第二しのもめ幼稚園は日々の実践活動において、ほぼ毎日表現活動・造形活動を行っていることで、これらの活動に対する子どもたちの集中力と工夫が著しい。

第二に、第二しのもめ幼稚園は日々の実践活動において、子どもたちのイメージをふくらませる努力と工夫を行っていることが、表現活動・造形活動を充実したものになっている。

今後の課題としては、今回の検討結果を踏まえて、今度は設定保育活動以外の活動の検討、観察のクラス、年齢段階を変えて更に詳細に検討する必要があるだろう。

## 【註】

- 1) 2007年度から、「付属」の表記が「附属」に変わった。
- 2) 八戸短期大学附属第二しののめ幼稚園 2006、『平成18年度 幼稚園要覧』、園ホームページより。
- 3) 平成19年11月9日の観察後、地元新聞社主催の展示会の表彰式が行われた。
- 4) 造形三系論については、改めて簡単に示しておく。これは、園長が十文字学園大学名誉教授の林建造から学んだ考え方で、第二しののめ幼稚園では、この造形三系論を核とした「表現的生き生き幼稚園活動」を目指しているという。幼稚園要覧によると、以下のように説明してある。「①描こうとするものを頭の中でイメージする活動（想像の系）、②次にそのイメージを具体化するためにクレヨンや絵の具などの材料や用具を選ぶ活動に入る（技術の系）→子どもは描きながら、絶えず自分が画いた絵のイメージ（想像）と照合し、フィードバックしながら修正し（技術）、完成にたどり着く。③描き上げた絵は、先生や両親や友を伝達の対象とし、自分のイメージが相手に上手く伝わったとき（認められたとき）、表現は完了する（伝達の系）。これらを行うためには、保育者は常に子どもの意欲を喚起し、子どもの成長の度合いをしっかりと見極め、作品は途中で必ず展示し、他人の目に触れさせ話し合わせなくてはならない」とのことであり、子どもの幼稚園活動は、教師と子どものこのようなやりとりに尽きると考えている、とのことである。
- 5) 第二しののめ幼稚園は、いわゆる一般の「ミッション系」の幼稚園ではない。経営母体の光星学院の創設者ヨゼフ中村由太郎の思いが、附属幼稚園の建学の精神に反映されているに過ぎない。
- 6) 実際の指導案の表現を一部訂正、もしくは簡略化した部分がある。
- 7) 第二しののめ幼稚園で、子どもたちが行うバザーのこと。
- 8) 八戸短期大学の幼児保育学科の学生と、附属幼稚園の年中児以上の子どもたちが参加する学校法人光星学院の音楽会である。
- 9) 3S活動というものは、前回の報告でも紹介したが第二しののめ幼稚園がの教職員へ対しての指導における一種の手引きのようなものである。以下に再度、簡単に示しておく。この活動は全体を通して子ども、親に対する触れ合いを強調しているもので、具体的には以下のようなものである。「Sマイル・・・のびのびとした子には、暗さは似合わない。子どもの明るさをつくるのは先生の笑顔です。私たちは、常に子どもの前では笑顔を忘れないことである」、「SAービス・・・①園でのどんな小さなことでも知りたいという、情報期待へのサービス、②自分の子どもにできるだけ愛情をかけて欲しい、と願う親へのサービス、③子どもの健康、安全に対する不安感除去へのサービス、④幼稚園に期待する、我が子へのより高い教育効果へのサービス、⑤保護者の持つ、利便性（身勝手さもあるが）ことへのサービス、⑥すべて我が身に照らして（親の心、子の心）へのサービス」、「Sキンシップ・・・目をかけ・声かけ・微笑をかけ・手にふれ・身にふれ・心にふれる。1日に一回は落ちこぼすことなく、子どもにその名で呼びかけ、頭をなで、肩を抱いて話し掛けよう。それが心の触れ合いとなり、親愛の情を沸き立たせることとなりましょう。子どもを愛し見つめ、時々心がわかり、更に愛しくなった時、私達は教師であることに無上の喜びを感じます」。

## 【主要参考文献・資料】

- 八戸短期大学附属第二しののめ幼稚園 2007、『平成19年度 幼稚園要覧』。  
八戸短期大学附属第二しののめ幼稚園所蔵平成19年度保育活動資料（設定保育活動指導案、園だより「こぼと」各号）。

《付記》本稿に関しては、第二しののめ幼稚園の園長藤澤隆先生と馬場智子先生にお世話になった。特に馬場先生には、保育活動の観察において大変お世話になった。記して謝意を表したい。